

CEATEC JAPAN NTTドコモブースで紹介

スマホの未来型UIには
「インテリジェントグラス」が必要？

「CEATEC JAPAN」のNTTドコモブースでは、前年に続き未来性の高いユーザーインターフェイスが紹介されていた。思えば、本連載の第1回を飾ったのもドコモの「Grip UI」と「i beam」。ということで、今回も期待に胸を膨らませてブースを訪れてみたが……。

ドコモブースが展示した将来型UIは「手ぶらでムービー」「なんでもインターフェイス」「見るだけインフォ」「空間インターフェイス」の4点。名前だけではよくわからないものばかりだが、これらすべてに共通しているのは「特殊メガネ（インテリジェントグラス）をかけて利用するものであること」である。

正直に言えば、利用するのに特殊メガネが必要な時点でUIとしての魅力は三割減だ。マイクロソフト「Kinect」のようなナチュラルUIがすべてとは思わないが、携帯端末であるスマホ・タブレットを使用するためにわざわざメガネを持ち運ばなければならない、という枷をはめたことは理解に苦しむ。

まずはそれぞれの機能を紹介しよう。

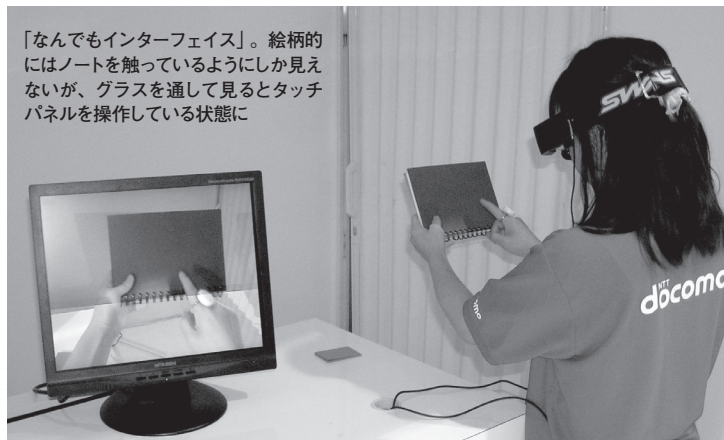
「手ぶらでムービー」は、スマートフォン上の画像をインテリジェントグラスに表示するというシンプルなサービス。動画を手持ちのディスプレイではなく、メガネに映すことで、よりリラックスした視聴環境を提供するものだ。

操作は音声入力のほか、スマホをトラックパッドとして利用することも可能。ある意味「インテリジェントグラス入門編」とも言えるサービスであり、取り分けて突っ込みどころもなければ目新しさにもかける内容だ。ドコモ側も「グラスをかけてもらうきっかけに」と位置付けていた。

さて、ここから3つは急激に近未来的になる。まずは「なんでもインターフェイス」。身の回りにある平面上の物体をグラスonの状態で見ると、タッチパネルディスプレイが再現されるというもので、実現できれば本体の持ち運びが不要になる。

展示ではノートのような冊子をディスプレイとして見立て、タッチパネルUIを投影(?)していた。タッチパネルを疑似再現しているというものの、あくまで空間上ではなく形ある平面上に再現しているため使いにくさはさほどない。はたから見ると

「なんでもインターフェイス」。絵柄的にはノートに触っているようにしか見えないが、グラスを通して見るとタッチパネルを操作している状態に



グラスをかけて冊子の表紙に触っているだけ、という絵柄もシュールなだけではなく、秘匿性に優れているという点でもユニークだ。

対面相手を忘れたときに……

「見るだけインフォ」は、対面している人や情報の付加情報がインテリジェントグラスに表示されるサービス。例えば「挨拶したことはあるが名前を忘れた」人物と対面した際、グラスを通して見ると対面相手を顔認識し、登録情報から名前や所属などを検索してくれるというスグレモノだ。

文字認識と組み合わせれば、海外渡航時に現地語で書かれた料理メニューなどを翻訳することも可能。人物顔認識を含め、この「登録情報の充実」如何によって使い勝手が大きく左右されそうだが、サービスとしては面白い。もっとも、これが広まりすぎるとグラスをかけた時点で「名前を忘られている」と相手に悟られる恐れがありそうではあるが。

最後は「空間インターフェイス」。先の「なんでも」とは逆で、何も無い空間上に仮想の何かを

「空間インターフェイス」。何も無いところに出現させた「なにか」に触れる。使い方で化ける可能性も



出現させるというもの。現時点での完成度が4点中もっとも低いため評価が難しいが、個人的には高い可能性を感じさせたシステムだ。

ポイントは、空間上に「何を」出現させるかだろう。例えば動画視聴中なら、テレビリモコン的なものを出現させることで操作しやすくなるかもしれない。ゲームならばコントローラ、音楽鑑賞ならばボリュームのつまみ、文字入力ならキーボードといったように、すでに使いやすさが実証されているアナログ的のUIをその都度空間再現できれば面白い。

冒頭でも指摘したとおり、そもそも「グラスありき」な時点であまり汎用性を感じないのは事実。が、そこに高い付加価値を見いだすことができれば、必ずしも傍流と侮ることはできなくなるかもしれない。

